

短期海外派遣報告書

群馬大学大学院 病態総合外科

持木彫人

JACCRO 短期海外派遣制度を利用して、イリノイ州シカゴで開催された米国 DDW に参加して参りました。米国出張や留学で米国各都市を訪れて来ましたが、シカゴは初めてで少し緊張感を持ってシカゴに降り立ちました。シカゴは全米第3の都市であり、ミシガン湖畔に位置する大都市で歴史のある高層ビル群やアル・カポネで有名です。本年度の DDW は 5 月 7 日から 10 日にかけて巨大なコンベンションセンターである McCormick Place で開催されました。今年も日本からの参加者は多く、日本からシカゴ行きの飛行機はどれも満席に近い状態だったようです。我々の教室からも大学院生を中心に 4 演題を発表しました。内 2 演題は top 10% に選ばれ意気揚々と発表するつもりでしたが、英語力の未熟さを痛感したようです。多くの参加者から質問を受けましたが、今回の大震災に対するお悔やみを言ってくれる先生も多々いられました。

昨年同様、医学系雑誌（日経メディカルなど）の取材が行われておりましたが、今年は NHK が取材に来ていました。我々も取材を受けましたが、NHK の取材の目的は漢方治療や代替医療などの東洋医学に対する発表でした。漢方治療などの東洋医学的治療が西洋人にどのように受け入れられているかに興味があったようで、発表を見に来ていた西洋人の参加者に取材し、漢方治療に対する印象を聞いていました。この取材の番組は来年に 90 分番組となり放送されるようです。

胃癌関連の演題では ESD の演題が最も多く、次いで Helicobacter pylori、分子生物学的手法による胃癌の悪制度診断、そして新しい分野では Her2 の中国での検討などが興味深い発表でした。胃癌に対する化学療法関係では、効果判定の際に RECIST を用いますが、原発巣に対する判定は難しく、転移巣に対する判定が行われていますが、EUS を用いた効果判定が報告されていました。原発巣のエコー強度と正常部位（筋層）のエコー強度を比較して（Echo intensity ratio）、化学療法前と後で比較検討して、効果を判定する報告でした。化学療法では本来、原発巣に対する効果が最も気になる所ではありますが、CT 等では判定できず、この方法を用いる事で容易に判定できる可能性を感じました。

今回、約 1 週間の海外出張でしたが、私の留守中も私が所属する胃グループでの臨床は止まること無く継続されていました。今回の出張で迷惑をかけた胃グループの後輩に感謝するとともに、このような機会を与えていただいた JACCRO に心から感謝いたします。